

MTT033-P17

会場:コンベンションホール

時間:5月25日 16:15-18:45

子どもの環境地図作成を通じた地図作成技能の形成 Children's map skill building through the eco-map making activities

大西 宏治^{1*}
Koji Ohnishi^{1*}

¹ 富山大学
¹University of Toyama

複数の共同作業でつくる環境地図のことを「エコ地図」という。身近な環境やエネルギーなどを題材にする地図である。エコ地図のエコという言葉には三つの意味が込められている。ecoのeは、環境を表すenvironmentとエネルギーを表すenergyが、coには共同作業を表すcollaborationの意味である。これまでにエコ地図を関したいくつかの地図作品展が開催されてきた(寺本ほか, 2005)。一般的な環境地図から、環境の音に着目した「音エコ地図」など、様々なテーマで環境地図が作成された。なかには地理情報システム(GIS)を巧みに用いた地図が作成されている。

これまでの作品をみると様々な調査方法や技法が用いられている。例えば地域の変容が電柱の数の変化に結びついてることを明らかにした作品がある。透明のシート上に時代ごとの電柱の分布を表現し、時代変化を容易に比較できるようにした。また、地域比較の結果を地図にまとめる作品もある。春を表す環境の一つがツバメであり、ツバメの巣が街中のどのようなところに作られるのかを調べた作品もある。人が暮らすまちにはツバメの巣があり、人口減少し空き家が増えたところにはツバメの巣がなくなることを分布から見いだした。他にも、川の様子を観察し上流から下流にかけて川が変化する様子をしっかりと踏査し描き出した作品もある。このように時代の変化を調査し、表現したり、地域を比較して表現したりということで調査の視点と地図表現の視点を地図作成のプロセスを通じて児童たちは獲得していた。

このような地図づくりは、どのような地図作成技能とつながるのだろうか。まず、調査する目的を明確化する技能を身につけることができる。また、自分の解明したい目的に対してどのようなデータが必要かを考える技能も身につけられるだろう。これらは地図作成の前段階で必要不可欠な技能である。さらに、自分の目的を明示化する地図表現を選択したり、創造したりする技能である。近年、GISが普及し、様々な地図表現がパッケージになった状態で利用できるようになり、表現技法について深く考察する機会が失われつつある。そのようなready madeな地図表現を受容する前に、地図は自分たちの目的に合わせて描くものであるという感覚を身につけるためにも、子どもたちが自分の目的を持って地図を描く経験を提供することは重要であろう。エコ地図は身近な地域の問題から、世界規模の問題まで、問題意識を形成しやすい地図作成のきっかけとなるため、優れた導入の切り口だといえる。

キーワード: 子ども, 地図教育, 技能

Keywords: children, cartographic education, skill